

## 令和3年度第1回秩父市総合教育会議議事録

期 日	令和3年6月17日（木曜日）
時間・場 所	15時～16時20分・歴史文化伝承館5階第1会議室
出席者	<p>北堀市長、前野教育長、高野教育委員、松本教育委員、山中教育委員、大島教育委員</p> <p>市長室長、市長室専門員兼地域政策課長、市長室参与、地域政策課主幹、地域政策課主査</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長2人、教育委員会専門員兼教育総務課長、学校教育課長、保健給食課長、教育研究所長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このたび多くの皆さまからご支持をいただき、5月1日に秩父市長に就任した。私は、地元秩父市の発展のため、今まで市議会等で20数年間、勉強させてもらった中で、教育行政の問題は永遠のテーマだと考えている。変えてはいけないことは、人間の心の問題であり、いじめの問題はあってはならない。根本的なことは変えないで、皆で仲良く暮らせる社会を作り上げていかななくてはならない。教育の問題の根本は、幼児教育が一番大事だと考える。子育ての中で親学も大事である。</li> <li>・この総合教育会議を実りあるものにしたいが、開催数が年間3回というのは少ない印象がある。多くのご意見をいただき、改革・改善ができればと考える。学校現場だけでは問題解決はしないため、民生委員や地域の方々と様々な角度から考えていく必要がある。</li> <li>・よろしくご審議を賜りたい。</li> </ul> <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に就任して初めて参加させていただく会議となり、教育委員の皆様には、それぞれの立場で教育に携わっていただいております。感謝申し上げます。市長との意見交換のため積極的な意見を発言してほしい。意見を出していただき、秩父市の市政発展のために少しでも反映していきたい。</li> </ul> <p>○大島委員挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に教育委員として任命された。住まいは本町で、自営業を営んでいる。早くこの場に慣れて良い意見が言えるようにご指導いただきたい。</li> </ul>

○議事

(1) 教育全般（道徳教育、親学、不登校、いじめなど）

- ・各委員より発言。

(高野委員)

- ・教育とは、変わらないものと変わっていくものがあると受け取っている。私は教員をやっていた。教育は不易と考えている。不易とは、どのように社会が変化しても変わらないもの。流行は社会の変化に対して変えていかなければならないものと考えている。そのような変化の中で子どもたちは依存性が強くなったり、親の学びが足りないのではという話がある。
- ・これからの社会、society5.0では、たくましい子どもを育てていかなければならない。10年後には時代が大きく変わると思われる。そのような時に新しいことにどんどん挑戦できる子ども達を育てていけたらということが根本にある。そのためには、主体的に自分から進んで授業に取り組んだり、友人と協力して勉強したり、わかることをどんどんと増やしていくことが必要である。4月から開始されたGIGAスクール構想で、子ども達にひとり1台端末が支給されたことも新しい挑戦のチャンスとなっている。
- ・道徳教育もとても大事だと考えている。その道徳教育も教科化となった。これも新しい時代へ向かっていく過程だと考える。これからの時代をたくましく生きる子ども達に育ってほしい。秩父市教育大綱にも、社会の変化に対応して生き抜く力を身に付ける秩父の教育を推進ということが含まれているので、それを推進していければと思っている。

(松本委員)

- ・各校でタブレットが配布されたが、子どもたちがまだまだ慣れていない先日、小学校3年生の社会の授業を見学した。グーグルのストリートビューを使った授業をやっていたが、方位がわからない子が多い感じがした。大人になると算数や数学はあまり使わないという話を聞くが、朝起きてから寝るまでに論理的思考が詰まっているのが数学だと思う。子ども達もそのような学習を積み重ねているから、大人になってできるようになるため、小中学校の義務教育は特に大切だと思う。
- ・教育は子ども達にはすぐに結果は出ないが、教育は人を作っている。育てているという認識で取り組んでいる。決して受験のためだけではない。
- ・いじめについては、いたずらだから許してしまうことが一番よくない。いじめをされている子が嫌だと感じたら、それがいじめである。いたずらで済ましてしまうことが良くない。例えば、学校で上履きが無く

なってしまった場合には、きちっとした指導が必要である。ちょっとしたいたずら心でやってしまったとしても、それが積み重なると心が痛む子がたくさんいるのではないか。心の強い子を育ててほしい。

(山中委員)

- 教育とは人間を育てることだと思っている。人間の本質的な部分、変わってはいけないものと時代の流れの中で変えなくてはいけない部分がある。教育大綱でも社会の変化に対応して生き抜く力と書いてあるが、子ども達が小中学校でその力を身に付けていけたら嬉しい。
- PTA に平成生まれの親御さんが入ってきており、何世代が重なって学校の中で活動する機会があるが、昭和生まれの親と違う教育を受けているため、世代間のギャップを感じることもある。
- 子どもが生まれた時には親も 0 才で、親も一緒に育っていくと考える。私は親学の勉強をし、とても参考になったが、今の時代に通用するか疑問がある。親学でも親御さん同士で同じ時間では学べないこともあるため、今の時代に合ったやり方を工夫していく必要がある。
- 去年の全国一斉休校時には、今まではあって当たり前前の学校が休校になった。このことが学習について考えるきっかけとなった。GIGA スクール構想も先生達の負担にならないように、教育委員会にはサポートをお願いしたい。

(大島委員)

- 親という立場で最近の子ども達への心配について述べたい。一番の心配は、子ども達の遊び方である。昔は学校帰りに放課後校庭で遊ぶ約束をしていたが、最近は、夜に通信ゲームで対戦する約束をしてくると聞いた。過激な内容の影響もあつてか、子どもたちの言葉遣いが悪くなっている。
- 人口減少時代の中において、秩父を支える子たちへの教育に北堀市長は熱心だと感じている。子ども達への良い教育は、学校の先生の指導の仕方が非常に大きい。昨今、先生の働き方改革が進んでいるが、保護者の立場も強くなって、様々なことを言われるストレスの中で、学校の先生をやりたくないという声も聞く。
- 先日、埼玉県 PTA 総会に出席した際に ICT 教育の講演を聴いた。その中で ICT 構想の説明を受けたが、親が理解していないことがあるらしい。国語を学ぶ際に、他国では新聞の記事を読み解くやり方を取っている。日本でも従来取り扱っていた文学的題材が、一気に変わる可能性もある。ICT 教育のタブレットは、文房具の一つとして慣れ親しんでいくことが良いし、クラウドに上げることで紙の節約にもなる。学校側は、親に対して、なぜこのようなことが必要なのかしっかり伝えて

いく必要がある。

- ・地域ごとに問題があると思うが、これから様々な情報を得て、何が子どもたちの未来につながるのか考えていきたい。

(前野教育長)

#### 道徳教育について

- ・大津市の中学生のいじめ自殺が、国が大きく変革するきっかけとなった事件となった。その結果、いじめの法律が整備され、教育委員会制度が変わった。その変化の一つが、総合教育会議の設置や教育大綱の整備である。
- ・その後、道徳が教科化となり、以前は、道徳の教科書が副読本扱いであったため、それぞれの学校で選んでいた。教科化に伴い、教科書として統一化して使うことになった。以前は、読み物教材を読んで感想を書く流れが多かったが、大きな括りの中で子どもの気持ちがどのように変化するかを評価することになった。時間数は、小学校2年生から中学校3年生までは、週に1回、年間35時間で、小学校1年生は1時間少なく年間34時間が決められている。

#### いじめについて

- ・令和2年度の小学校での件数は376件あり、そのうちの解消率は77.9%となっている。いじめの行為がなくなってから3か月経過後に何もなかったら、解消したと位置づけられるため、3月末での解消率が100%になることは難しい。小学校での件数は34件あり、そのうちの解消率は67.6%となっている。
- ・なぜいじめが起こるかは、色々な絡みがあり難しい。一律にこのようなことがあったから、いじめに発展するとは言い切れない。すぐにその場で先生や友達に相談して解決につながればよいが、なかなか解決につながらない。

#### 不登校について

- ・令和2年度は小学校で10人、中学校で39人。不登校の定義とは、病気と経済的な原因を除いて、年間30日以上休むこととされている。原因は学業不振や友達関係とのトラブルが多いが、理由がはっきりしないケースもたくさんある。複合的な学校不適合が重なって学校に行けなくなってしまう。

#### 親学について

- ・学校があるのが当たり前であるが、行かなくても良いとはっきり言う親もいる。そのような中で背中をちょっと押せばいける子もいるが、色々な形で休んでしまう。親学は、親になるための学びということばであるが、昔は家族が大勢いて誰かが面倒をみてくれていた。今では、

親学の講座を案内しても、様々な事情で参加してくれる親は少ないが、小学校1年生入学の際に家庭教育アドバイザーに話をしてもらおう機会は多い。親になるために色々と学んでほしい。

- ・一人の子どもを育てることは命がけで、家庭、学校、行政がそれぞれの役割を果たしていくことが大事であるが、その線引きがなかなか難しい。

(市長)

- ・基本は幼児教育が重要だと感じており、親がしっかりしていることが前提であるが、三つ子の魂百までが大事になる。色々な問題が起きる中で、子ども達すべてが悪いわけではない。どこかでリセット出来れば良いがそれもなかなか難しいので、思い切った政策を出さなければならない。親の影響は非常に大きいと感じており、特に母親の影響が一番大きい。最近では夫婦で子育ての社会になり、物は豊かになったが、精神的な豊かさが、高度経済成長の中で置き去りになった。
- ・いじめといたずらの境は難しい。数年前に美しい日本語が無くなってきて、流行語を使ってしまうことが増えてきた。ある程度の年齢が進むと自我が芽生えていくことになる。子どもが育っていく中では、学校環境が大きい。いじめの問題は、大人の世界で無くならない限りは、子どもの世界で無くならない。
- ・昔は、苦労しながら学校に行く子どもが多かったが、あまり苦労しなくても大学に行けるようになってきている。子どもは、親が一生懸命働いていれば、なんとなくその様子を見ている。自分の子育てにおいても、人には迷惑をかけるなど言ってきた。最終的には、その人の人間性をどのように引き出していくのが大事である。最近の若者は、メンタルが弱いと感じている。
- ・子どもが社会に出た時に一人で生きていける力を身につけることが大事だと思う。そのためには、経済的に豊かでも貧しくても、教育の過程の中で苦労させることが重要だと感じる。子どもと一緒に乗り越えていく。
- ・いじめの問題は、学校側だけで考えていくのではなく、PTAと一緒にやって議論を重ねていったほうが良い。
- ・秩父が良くなることであれば、前例踏襲は関係なく、新しいものにチャレンジしながら、教育行政を進めていきたい。
- ・皆さまの貴重なご意見を頂きながら、行政全般で取り組んでいきたい。
- ・全国で1740市町村あるが、教育については日本一と言われる秩父市を目指していきたい。

(高野委員)

- ・GIGA スクール構想の中で、先生方の働き方改革にも影響がある。学校の現状は忙しく、このGIGA スクール構想に支援員が居たら望ましい。そのことが、先生方の働き方改革にもつながっていく。

(山中委員)

- ・コロナ禍において、親御さんや地域の方々も学校に行きづらくなってきた。やはり、子どもを真ん中において、地域の方々の見守りが非常に大事だと思う。

(大島委員)

- ・ふれあい教室が廃止となってしまって、学校が終わった後の子どもを預かってくれる場所が無くなってしまった。色々なところで、ふれあい教室を希望する声を聞いているので、また復活できればと思っている。

(山中委員)

- ・ふれあい学校は、もともと学校の放課後を校庭開放して遊べるような時間として開設したという認識があった。10年間続いていく中、社会の変化の中で、働ける親御さんが子ども達を預かれる時間があればという声があった。

(高野委員)

- ・秩父市は学童保育が非常に充実している。

(大島委員)

- ・ふれあい教室の成り立ちがよくわかった。

## (2) 芝生化

- ・事務局（教育委員会事務局）から説明。
- ・市内小学校13校のうち、校庭の芝生化を一部実施している学校が3校ある。平成17年度には荒川西小で約482平米。校庭の約1割程度。平成22年度には花の木小学校で約319平米。平成24年度には荒川東小学校で約207平米を整備している。
- ・平成17年度の荒川西小学校は、合併の際に旧荒川村で予算措置を行い、約270万円かけて野芝を敷いている。花の木小学校は、花小タワーという遊具の下にケガ防止のために敷いて、水やりは先生方をお願いしていた。荒川東小学校は、ティフトン芝という繁殖の強い芝を約1メートル敷いてある。芝の状態は、最近は手入れができていない。
- ・荒川西小学校と花の木小学校は、種を購入したり、水まきを行う程度の金額で土壌改良等は行っていないので、経費は安く済んでいる。

(市長)

- ・小学校の芝生化というとヒートアイランドの問題があり、子ども達の

熱中症対策をして、裸足で遊べるグラウンドにしたい。費用はあまりかからないようにして、野芝でも雑草でもよい。埼玉県でも芝生化は進めている。学校の先生の負担にならないように、用務員さんやPTAに協力してもらいながら、きれいなイメージの芝ではなく、雑草の芝を刈り込んでいければ出来るのではないか。

(高野委員)

- ・芝生化は環境には良いし、怪我をしないというメリットはあるが、マイナスの面もある。一番の問題は維持管理は誰が行うのか。とても用務員さんだけではできない。どの程度の芝生化を行うのか、少しだけやるということであればできる可能性もある。しかし、校庭全面をやるということであれば、業者に手入れに入ってもらうことになる。秩父市の校庭は、行事を行う場合に駐車場としても利用している。

(松本委員)

- ・かつてイギリスでとてもきれいな状態を見てきた。しかし、業者が手入れのために入っているため、学校の休み時間に子どもたちは遊ぶことは出来ない状態であった。
- ・一反歩の草刈りをするためには、何時間もかかってしまう。
- ・バスケットコート程度の裸足で遊べる場所を作っても良いが、秩父は鳥が多いため糞をして、その後たんぽぽが生えてくる。今後、研究してできることであれば一番良いと思う。

(山中委員)

- ・緑豊かな学校というものが想像できるが、それだけのお金をかけていく必要があるのか、なぜそのようなことをするのかを議論できたら良いと思う。熱中症対策になるほどの芝生の量がどの程度必要なのか、どのくらいかかるのか、維持管理にかかるのか等々。
- ・怪我については、校庭で遊んで泥の中で傷を負うのも大きな体験ではないか。今後も色々と議論の余地はあると思う。

(大島委員)

- ・現在、花小タワーの下に芝生の名残があり、かつて何人も落ちて骨を折っている中で、安全対策を考えた時に芝生化が出来たら良いと思う。
- ・もしかしたら芝生化を希望する学校もあるかもしれないので、リサーチやヒアリングし、実現出来たら素晴らしいと思う。

(教育長)

- ・ヒートアイランドや怪我防止には良いと思うが、校庭は運動場であり、芝生化した上を突起のない靴で走ると滑ったり難しいのではないか。芝の上で運動することは、軽い運動であれば良いと思うが、全力を出すとなると難しいと思う。例えば、芝生でサッカーをやるためには、

スパイクを履くため滑ることはない。普段の小学生の生活の中では、スパイクを履くことは困難である。色々な運動があるため、運動する場所に芝生化は難しいと思う。芝生化を希望する学校があれば、やっても良いと思うが、今後研究をしてできる方策を探っていきたい。

○閉会

以上